

秋季特別展 『八木良太 nightfall in UBUD』

■展覧会概要

会 期 二〇一七年十一月十八日・十二月二日
 会 場 京都造形芸術大学芸術館
 企画運営 毛利義嗣
 協 力 京都造形芸術大学ウルトラファクトリー／
 無人島プロダクション

芸術館では、アーティストと当館所蔵品とのコラボレーションとして二〇一三年から一六年まで『縄文と現代』シリーズを開催してきた。本展は、その可能性を引き継ぎつつ、芸術館、アーティスト、大学、コレクション相互のこれからの連携を見出す試みである。

八木良太（空間演出デザイン学科准教授）は、「見えないものの可視化／聞こえないものの可聴化」を主題に、映像、音響、オブジェなどのメディアを駆使した作品を制作、国内外で活動を広げている。本展では、近年の特徴的な作品、バリ島ウブドをテーマとした新作、芸術館所蔵品（縄文土器）の3Dスキャンデータを用いた新しいコラボレーションなど、時空をつなぐ作品世界が展開された。

■関連イベント

◎十一月十八日

退任記念講演 「切迫する個／直面する私
 ─『縄文と現代』シリーズを終えて─」

講師…岡本 康明（本館館長）

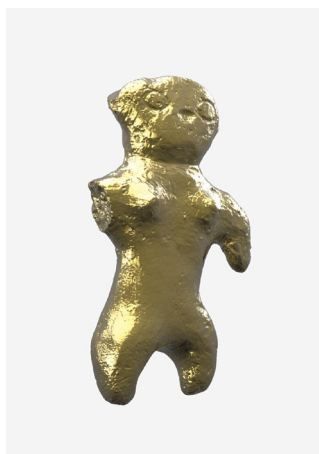
◎十二月一日

トークセッション

講師…八木良太、植島啓司（宗教人類学
 者／空間演出デザイン学科教授）

進行…毛利義嗣（本展企画／芸術教育資格
 支援センター准教授）

撮影…表恒匡



3Dスキャンされた縄文土器／
土偶データ



「ANDIR / ODALAN」2017



「Nightfall in UBUD」2017



「Frottage」・「River under the Table」・「Foci」